

## 業務改善 PT のみなさま

この度はお忙しいなか「年度末報告様式（案）に関するアンケート（任意）」にご協力を頂き、ありがとうございます。回答期限が1週間と短い中、6団体のみなさまにご協力いただきました。いただいたご意見をふまえ見直しをしたところ、様式の大枠の変更は必要ないと考えております。アンケート時にご覧いただいた様式に文字数上限を追記した様式を2月19日を目途に公開できればと考えております。

また、年度末報告の目的とアンケートでいただいたご意見・ご提案へのご返答を本紙面上でさせていただきますので、よろしければお目通しください。

### 【年度末報告の目的】 ————— 大きく2点挙げられます。

#### ① 進捗状況をふまえて助成金の交付を行うため

休眠預金等を活用した事業では、「本事業の進捗状況及びその成果に関する報告並びに直近の精算手続の結果又は本総事業費の執行状況を踏まえたうえで」助成金の交付を行うことが原則とされております。<sup>1</sup>

この建付けの背景には、基本方針にて「適切な資金のリスク管理」を行ったうえで助成することや「進捗状況を定期的にあらかじめ設定された期日において報告を受けること」が求められていること<sup>2</sup>、複数年度の比較的多額の助成が多いなかで事業の進捗状況と資金の執行状況を確認したうえで次の半期分（※）を支払う仕組みとなっていたことが挙げられます。

※元来、預金保険機構から JANPIA に対して休眠預金等交付金が交付される時期は法令により毎年7月以降でしたが、つなぎ資金を準備いただかなくて済むよう4月にも交付できるようになりましたので、4月及び7月の交付に実行団体へ交付される額はそれぞれ半期分ではなく3か月分の想定です。

#### ② 事業の進捗状況や成果を国民に届けるため

休眠預金等に係る資金の活用にあたっては、事後の報告書の公表にとどまらず、事業の進捗状況や成果等を分かりやすい形で公表することで、国民一般の利益の増進や休眠預金等に係る資金をてこに民間の資金を調達できるようにすることが期待されています。<sup>3</sup>

---

<sup>1</sup> 2019 年度採択 通常枠の資金分配団体—実行団体契約書第 10 条 2 項

<sup>2</sup> 基本方針 第 3 1. (1) ② a)、第 3 1. (1) ②b)

<sup>3</sup> 基本方針 第 2 1. (1) 国民への還元、(3) 持続可能性、(4) 透明性・説明責任

**【アンケートでいただいたご意見・ご提案へのご返答】—————**

類似のご意見を頂いているものについては勝手ながら統合した表記とさせていただいたうえでのご返答とさせていただきます。

**■アウトプットの進捗状況について。**

・『回答欄は、全体の概要を聞く項目として、「計画より進んでいる～計画より遅れている」の選択肢に加えて、遅れている項目があればその理由を自由記述としてはどうか。』

→「8.報告期間における課題と次年度にむけた取り組み」セクションで、「進捗状況が「計画より遅れている」場合の理由と対策」を含めてご記載いただくように記しておりますので、こちらでご回答いただければ幸いです。

**■資金の執行状況について**

・『精算様式を見ればわかる、月例報告で把握できるものであれば不要』

→自己資金の集まり具合については精算様式のなかに一目でわかる項目はない状況（※）です。年度末報告で「計画どおりの執行状況か」「報告年度に用意する予定だった自己資金は集めることができたか」という問いがある意図は、①事業終了時の持続可能性を意識しながら事業を進める対話の契機とすること、②状況が一般の方にも理解できるようにすること、③計画していた自己資金が用意できたかを横串で把握することになります。

※自己資金の実績額にあわせて資金計画が年度内に改訂されていれば精算様式1「資金計画（改定後 金額）」がそれにあたります。また、収支管理簿で自己資金に充当するために指定口座に振り込まれている金額を積み上げれば把握することができます。

**■資金分配団体ごとに任意で設定できる設問欄について（実行団体用報告様式）**

→必要／不要、公開／非公開についてご意見が割れた点になります。ご利用は任意の項目ですので利用しないことも可能なため、資金分配団体ごとに自由裁量で設定できる欄として報告様式には項目を残すこととしました。なお、報告内容は原則公開する前提のため本項目も公開を前提とした項目として設置いたします。

■その他：文字数について

- ・『各項目に目安の文字数や制限字数（または全体でA4〇ページ以内）があるといい』

→選択項目以外の各項目について入力上限の文字数情報を付記するようにいたします。

あくまで本文字数上限は JANPIA 側でシステムに入力する際（※）を考慮した上限文字数となります。文字数まで記載しなければならないという意向ではない点ご認識いただければと思います。

※本年度末報告はシステム開発後に JANPIA 側で入力代行をすることを想定しております。

■その他：ファイル形式について

- ・『システムにインポートするならエクセルのデータが良く、インポートしないなら文書作成なのでワードファイルにした方が良い。』

→作成した excel データをシステムに吸い上げる機能については過去に検討したことがあったのですが、システム開発に多額の費用がかかることから、データを吸い上げる機能の開発については見送っている状況です。将来的に利用団体の皆様のご意見を踏まえてそのような機能の追加が再検討されることはありうるかとは思いますが。

■その他：報告の内容について

- ・『事業の評価指標からの視点で報告内容を記入していただくなど、中間評価につながるようなイメージでの報告事項の提示ができるといいのではないか。』

→各指標の達成状況を把握するためには調査等が必要な場合も多く、そのような観点は事前評価—中間評価—事後評価のラインでご報告いただくことを想定しております。資金分配団体ごとに任意で自由設定いただける設問（実行団体向け報告様式）のなかで、そのような観点のご質問をいれていただくことは可能かと思いますが、年度末は精算作業などもあり団体様の負荷が大きなことや組織規模や評価計画などによっては年度末報告のタイミングでの報告が難しいことも考慮し全体向けの設問としては作成していない状況です。

■その他：緊急枠について

- ・『年度末報告＝3 か年の通常枠の事業の年度毎の報告様式として認識しておりますが、緊急枠の進捗・事業完了報告も同様形式かと思い、その前提で回答いたします。』『緊急枠では、

**1年の事業期間における実行団体の負荷を考え、できるだけ簡潔、最低限の項目に絞っていただけるとよい。』**

→ご説明が不足しており申し訳ございませんでした。ご推察の通り本年度末報告は通常枠の様式となりますが、いただいたご意見は緊急枠で今後公開される報告様式を検討する際（※）にも反映させていただければと思います。

※中間地点の「進捗報告」については、事業開始時期の早かった団体様で必要な団体様がいらっしゃる既に公開をしております。現時点でご提出が必要な団体様におかれましては既に公開している様式で、また今後ご提出いただく団体様におかれましては頂いたご意見をふまえた更新をさせていただいた様式を展開の予定です。

**【参考】**

[アンケートの際にご覧いただいた年度末報告様式（案）](#)

[アンケート内容](#)